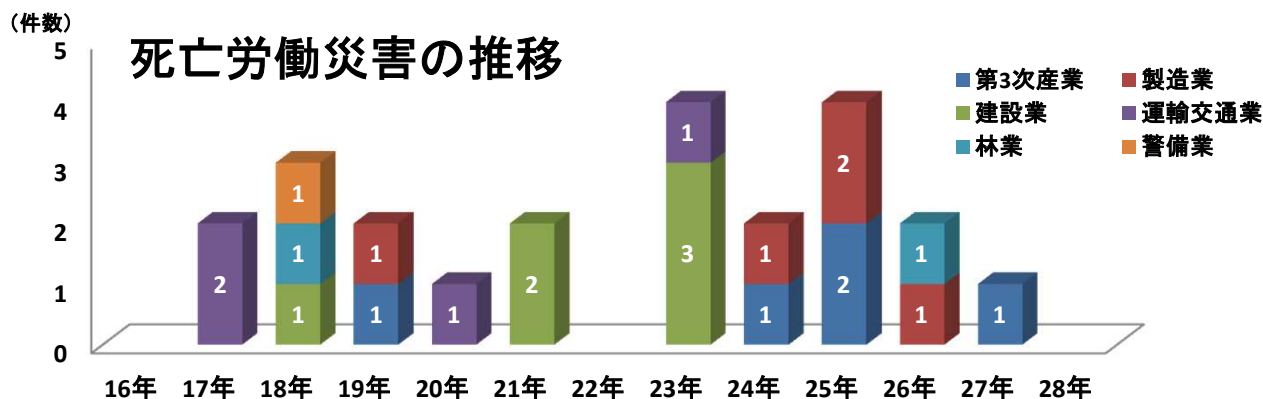
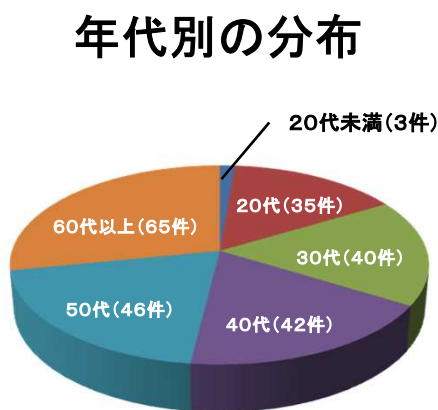
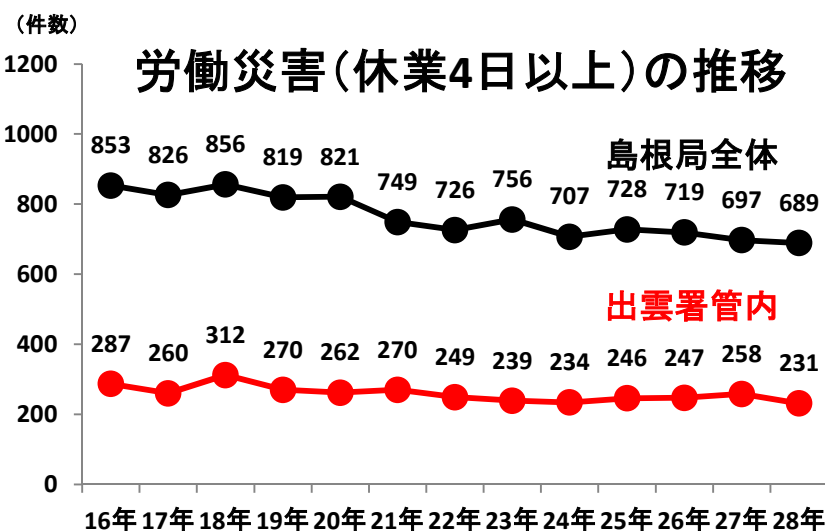


平成28年 いずもの 労働災害

(確定値)



出雲労働基準監督署管内の
労働災害発生状況をまとめました。



『労働災害の概況』

平成28年の出雲労働基準監督署管内(出雲市、大田市、雲南市(三刀屋町、掛合町、吉田町)、飯石郡)で発生した労働災害による休業4日以上の死傷者数は231件で、平成27年から27件減少しました。

死亡災害は出雲労働基準監督署管内では発生していません。

近年の労働災害の推移は、出雲労働基準監督署管内では増加傾向にありましたが平成28年は減少に転じています。



労働災害の発生状況

休業4日以上の労働災害の発生状況(確定値)

業 種		平成27年	平成28年	増減数	増減率 (%)
全 産 業		① 258	231	-27	-10.5
製 造 業	食 料 品	17	9	-8	-47.1
	織 維 ・ 衣 服	3	1	-2	-66.7
	木 材 ・ 木 製 品	5	4	-1	-20.0
	家 具 ・ 装 備 品	1	2	1	100.0
	紙 ・ 印 刷	2	0	-2	-100.0
	化 学	0	2	2	—
	窯 業 ・ 土 石	9	6	-3	-33.3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	2	4	2	100.0
	金 属 製 品	5	7	2	40.0
	機 械 器 具	5	9	4	80.0
	その他の製造業	2	6	4	200.0
	小 計	51	50	-1	-2.0
鉱 業		1	0	-1	-100.0
建 設 業	土 木 工 事 業	14	13	-1	-7.1
	木造建築工事業	8	7	-1	-12.5
	その他の建築業	9	18	9	100.0
	その他建設業	11	2	-9	-81.8
	小 計	42	40	-2	-4.8
運 交 通	道路貨物運送業	13	13	0	0.0
	その他の運輸業	1	5	4	400.0
林 業	伐 木 ・ 搬 出	9	4	-5	-55.6
	造林・その他林業	11	6	-5	-45.5
	小 計	20	10	-10	-50.0
第 三 次 産 業	小 売 業	30	21	-9	-30.0
	社会福祉施設	31	32	1	3.2
	飲 食 店	10	7	-3	-30.0
	その他の第三次産業	① 49	39	-10	-20.4
	小 計	① 120	99	-21	-17.5
そ の 他		10	14	4	40.0

※○内の数字は死亡者数で内数

※「第三次産業」とは、全産業のうち製造業、鉱業、建設業、運輸交通業、農林業、畜産業、水産業を除いたもの

※「その他」とは、貨物取扱業、農業、畜産業、水産業



製造業に多い災害

- ① 機械によるはさまれ・巻き込まれ(14件)
- ② 転倒、動作の反動・無理な動作(各6件)

建設業に多い災害

- ① 足場などからの墜落・転落(14件)
- ② 工具などによる切れ・こすれ(7件)
- ③ 転倒、激突され(各4件)



道路貨物運送業に多い災害

- ① 荷役作業中などの墜落・転落(9件)
- ② 転倒(3件)
- ③ 動作の反動・無理な動作(2件)

林業に多い災害

- ① 山林での転倒、立木などの激突され、チェーンソーなどによる切れ・こすれ(各3件)

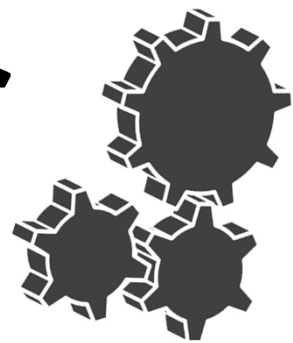


第三次産業に多い災害

- ① 転倒(29件)
- ② 腰痛などの動作の反動・無理な動作(21件)
- ③ 脚立等からの墜落・転落、切れ・こすれ(10件)



リスクアセスメント を**実施**しよう...



《リスクアセスメントの進め方》

①リスクの特定

『①**リスクの特定**』職場に潜む危険源・有害源（ハザード）とそのハザードに労働者が触れ起きる労働災害や健康障害に至るプロセスを危険有害要因として特定します。

②リスクの見積もり

『②**リスクの見積もり**』危険有害要因ごとに危険性・有害性（リスク）の大きさを見積もります。

③対策の必要性和優先度を決定

『③**対策の必要性和優先度を決定**』見積もりの結果、そのリスクが許容できるか、できないかを評価し、対策の優先順位を決めます。

④リスク除去・低減

『④**リスク除去・低減**』許容できない危険有害要因はルールに従ってリスクを除去・低減する対策を検討し、改善します。

《リスクアセスメントを実施するメリット》

- 職場のリスクが明確になります。
- 職場のリスクに対する認識を管理者を含め職場全体で共有できます。
- 安全対策について合理的な方法で優先順位を決めることができます。
- 残されたリスクについて「守るべき決め事」の理由が明確になります。
- 職場全体が参加することにより「危険」に対する感受性が高まります。

作業工程の変更や技術進歩などによって状況は変化するのでリスクは恒常的ではありません。作業方法の変更、新設備の導入時や定期的にリスクアセスメントを実施しましょう。

